

東京都交響楽団音楽監督大野和士氏による文化講演特別編

平成 30 年 9 月 7 日(金) 大野和士さんに「音楽の力」をテーマに講演していただきました。講演後は都響奏者 4 名（バイオリン、チェロ、トランペット、クラリネット）の方を交えて演奏指導もしていただきました。青山フィルハーモニー管弦楽団の本校の生徒たちは、大野さんの指導の下、ドヴォルザークの交響曲第 9 番《新世界より》の第 4 楽章を演奏しました。予定時間を 1 時間も上回って、真剣に指導される大野さんの迫力に、生徒たちは緊張しながらも懸命に演奏に打ち込んでいました。



講演中の大野和士氏

大野さんのお話

幼い頃に、ちゃんちゃんこを着て、お箸を指揮棒代わりにしたというエピソードに、その天才ぶりがうかがえます。20 歳の頃、4 人のプロの歌手の前で指揮をしたとき、息が止まりそうなほどその歌声の迫力に感動したことや、ドイツに渡り音楽を学んでいるとき、譜面なしで指揮をする二人の天才指揮者と出会って、指揮者としてやっていけるか不安になったことを飾らずに話してくださいました。その後、クロアチアで指揮者を務めたことや、その時に紛争に巻き込まれて、空襲も経験したそうです。オーケストラは国や民族を超えた人々が集まっている、インターナショナルなものでしたが、戦時下にもかかわらず、クロアチアの人々は、毎晩足を運んでくれたそうです。大野さんはそこに音楽のもつ力を感じたと語っていました。

大野さんの心に残ることば

音楽は世界言語。譜面を通して、作曲者の心情をいかに理解するか、そして、いかに表現するかが課題だ。ちょうど、読書や戯曲の行間やセリフに隠された登場人物の心情を読み取ることに似ています。はっと息を呑む瞬間の感動を、いかに伝えるかが指揮者の役割である。



演奏指導並びに指揮指導



青フィルとの記念写真